

令和5(2023)年度 病害虫発生予報 第6号

令和5(2023)年9月22日
栃木県農業環境指導センター

高い気温が予想されるため秋冬作物の病害虫発生に注意しましょう！

予想期間 9月下旬～10月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや少ない(平年比30%：ほ場率、平年比24%：株率)。(一～土)
・ 向こう1か月の気温は高く、日照時間はほぼ平年並の見込み。(土～+)
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・ 化学農薬に対する感受性低下が起りやすいため、必ずローテーション散布を行うとともに、抵抗性が発達しにくい気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。
・ 天敵導入時にハダニ類が多いと失敗しやすいので、天敵導入前に気門封鎖剤や天敵に影響の小さい薬剤を散布し、ハダニ類の増殖を抑制しておく。
- (4) 備 考 ・ [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 トマト コナジラミ類(黄化葉巻病(TYLCV))

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在のコナジラミ類の発生は少ないが、一部のほ場では黄化葉巻病の発生が確認されている。(土)
・ 向こう1か月の気温は高く、降水量、日照時間はほぼ平年並の見込み。(土～+)
- (3) 対 策 ・ ウイルスを媒介するタバココナジラミの侵入を防ぐため、ハウスの開口部(出入り口、側窓、天窗)に0.4mm目合以下のネットを張り、特に出入り口は二重にする。
・ 黄色粘着板の設置により、コナジラミ類の早期発見に努める。発生が見られた場合は、コルト顆粒水和剤(RACコードI:9B)等を散布する。
・ 発病株は伝染源となるので、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
・ 耐病性品種であっても、本病に感染すると伝染源となるため、感受性品種と同様に適正な防除を行う。
- (4) 備 考 ・ [令和5\(2023\)年植物防疫ニュースNo.8](#)、[防除のポイントNo.22](#)、[タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

3 きゅうり コナジラミ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並(平年比114%：ほ場率、平年比146%：株率)。(土)
・ 向こう1か月の気温は高く、降水量、日照時間はほぼ平年並の見込み。(土～+)
- (3) 対 策 ・ 密度が増加すると防除が困難になるため、ほ場内に黄色粘着板を設置し、早期発見・早期防除を行う。
・ 薬剤感受性の低下を避けるため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
・ ハウスの開口部に0.4mm目合以下のネットを張り、特に出入り口は二重にする。
- (4) 備 考 ・ タバココナジラミは退緑黄化病(CCYV)を媒介する。

4 ねぎ 黒斑病・葉枯病

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並(平年比103%：ほ場率、平年比51%：株率)。(土)
・ 向こう1か月の気温は高く、降水量、日照時間はほぼ平年並の見込み。(土～+)
- (3) 対 策 ・ 発生初期の防除に重点を置く。多湿条件で発生しやすいため、秋雨期や曇雨天が続く場合は発生に注意して防除を行う。
・ 窒素過多は病害が発生しやすいため、適正な肥培管理を実施する。
・ 残さは、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

5 ねぎ ハモグリバエ類

- (1) 発生予想 発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い(平年比162%：ほ場率)。(十)
・ 向こう1か月の平均気温は高く、降水量はほぼ平年並の見込み。(土～+)

- (3) 対策 ・ ほ場をよく観察し、発生が認められた場合は速やかに防除を行う。
 ・ RAC コードの異なる薬剤をローテーションで散布する。

- (4) 備考 ・ [令和2\(2020\)年植物防疫ニュース No. 13](#) を当センターHP に掲載中。

6 野菜類(いちご・なす・キャベツ・レタス等)・花き類・大豆 ハスモンヨトウ

(1) 発生予想 発生量：**やや多い**

- (2) 根拠 ・ 9月第2半旬までのフェロモントラップによる誘殺数は平年並。(±)
 ・ 現在の発生量は、いちご及びきくでは少ないが、なす及び大豆では多い。(－～＋)
 ・ 向こう1か月の気温は高く、日照時間はほぼ平年並の見込み。(±～＋)

- (3) 対策 ・ 定期的にほ場を観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。
 ・ 幼虫の齢期が進むと被害が大きくなり薬剤が効きにくくなるので、発生初期の若齢幼虫のうちに薬剤防除を行う。

7 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
大豆	カメムシ類	多	多	キャベツ・レタス	アブラムシ類	やや少	平年並
トマト	すすかび病	平年並	やや多	りんご	斑点落葉病	多	多
きゅうり	べと病	少	やや少		褐斑病	やや多	やや多
キャベツ・レタス	タバコガ類	平年並	やや多	きく	ハダニ類	平年並	やや多

秋の病害虫防除対策

○水稲 縞葉枯病

- ・ 縞葉枯病が発生したほ場の再生稲(ひこばえ)は、媒介虫のヒメトビウソカノ増殖源と縞葉枯ウイルスの獲得源になります。早めに丁寧な耕起を行いましょ。

○麦類 種子伝染性病害

- ・ 近年、オオムギ斑葉病やムギ類黒節病等の種子伝染性病害が発生しています。種子消毒を行うとともに、は種は適期に行いましょ。

○トマト・なす等 トマトキバガ

- ・ 外来害虫である本種の国内における確認報告が相次いでおり、9月現在、23道県で発生が確認されています。栃木県での発生は確認されていませんが、飛翔による分散や苗類等を介して、本県での発生が懸念されます。発生が疑われる場合は、お近くの農業振興事務所もしくは農業環境指導センターへ御連絡ください。
- ・ [注意喚起チラシ](#)を当センターHPに掲載中です。

○いちご 炭疽病・萎黄病

- ・ 症状が出てからの防除は困難であるため、本ほに持ち込まないことが重要です。本ほで発生が見られた場合、発病及び感染が疑われる株は早急に取り除き、ほ場外で適切に処分しましょ。[令和5\(2023\)年植物防疫ニュース\(速報 No. 6\)](#)を当センターHPに掲載中です。

○いちご アザミウマ類

- ・ 頂花房の開花が10月上旬以前から見られる施設では、秋期からアザミウマ類が発生しやすく、翌年の発生も早まる傾向があるため、適切に防除しましょ。

○なし 黒星病・炭疽病、りんご 斑点落葉病・褐斑病

- ・ 病原菌は芽や落葉で越冬し、翌年の発生源となるため、収穫終了後は徒長枝の先端までまんべんなく薬液がかかるよう丁寧に薬剤散布を行いましょ。防除の際は周辺へ飛散(ドリフト)しないよう十分注意しましょ。
- ・ [令和5\(2023\)年植物防疫ニュース\(速報 No. 4\)](#)、[りんご褐斑病薬剤感受性検定結果](#)、[なし炭疽病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中です。

○農薬を適正に管理し、容器のラベルをよく読み、農薬による事故等の発生を防止しましょ。

○同一薬剤の連用を避け、異なるRACコードの薬剤をローテーション散布しましょ。

1か月気象予報(予報期間9月23日から10月22日 9月21日気象庁発表)

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。天気は数日の周期で変わります。平均気温は高い見込みです。降水量、日照時間はほぼ平年並の見込みです。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)

項目	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10%	10%	80%
降水量	30%	40%	30%
日照時間	30%	30%	40%



NOUGYO_KSC_TOCHIGI

Instagram 農作物病害虫図鑑@とちぎ

センター所蔵の病害虫画像をインスタグラム上で公開しています。

主要病害虫から珍しい種まで、定期的に更新中！

#栃木県#病害虫図鑑 検索&フォローよろしくお願いします！

詳しくは農業環境指導センター (Tel 028-626-3086) までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはX (旧ツイッター)「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。

